

1 支笏洞爺国立公園及び各管理計画区の概況

(1) 支笏洞爺国立公園の自然環境・利用状況

本国立公園は北海道の南西部に位置し、昭和24年5月16日に全国で14番目に指定された国立公園である。公園区域として支笏湖、定山溪、洞爺湖、羊蹄山及び登別周辺の地域一帯が指定されている。関係市町村は、6市7町1村（札幌市、苫小牧市、千歳市、登別市、恵庭市、伊達市、ニセコ町、真狩村、喜茂別町、京極町、倶知安町、洞爺湖町、壮瞥町、白老町）で、指定面積は99,473haである。

<支笏洞爺国立公園の自然環境>

本国立公園は北海道の南西部に位置し、我が国を代表するカルデラ湖である支笏湖と洞爺湖を中心に、今なお活動を続けている有珠山、昭和新山、樽前山と典型的な成層火山の羊蹄山等多くの火山によって構成されている。また、これらの山々の間に、噴泉、地獄谷等の火山現象地や、倶多楽湖、橋湖等の火山性湖沼が散在しており、我が国を代表する火山群の景観を成している。

本公園の大半は、ミズナラ、エゾイタヤ等による落葉広葉樹林やエゾマツ、ダケカンバ等の針広混交林に覆われ、標高1,000mを超える山頂部や稜線部にはハイマツ帯も見られ、高山植物のお花畑が随所に発達している。特に羊蹄山では、山麓の広葉樹林から中腹の針葉樹林、さらにキバナシャクナゲやエゾノツガザクラ等の高山植物に彩られた山頂まで典型的な植物の垂直分布が見られる。

また、豊かな森林に覆われているため、多くの野生動物がみられる。ほ乳類ではヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、エゾリス等が生息しており、野鳥も多く生息し、周りが森林に覆われている湖沼ではカイツブリ、マガモ等の水鳥とキビタキ、アカゲラ等森林性鳥類の両方を見ることが出来る。

<支笏洞爺国立公園の利用状況>

本国立公園の年間利用者数は約1,439万人（平成18年）で、北海道内の国立公園の中で、最も利用者が多く、全国29の国立公園の中でも7番目に多い国立公園である。なお、本国立公園の利用者数は、近年横ばい状態が続いている。

本国立公園は、札幌市中心部や新千歳空港からも近いため、多くの人が来訪しやすい立地にある。主な利用形態はマイカーや団体ツアーバスによる周遊観光が多く、他には登山、高山植物観賞や火山現象などの自然探勝、温泉を利用した保養等である。主な利用時期は5月から10月に集中し、冬季の利用者は少ない。

(2) 管理計画区の区分、各管理計画区の概況

<管理計画区の区分>

この国立公園を、位置及び利用実態等の観点から支笏湖及び定山溪を中心とする支笏湖・定山溪管理計画区、羊蹄山周辺の羊蹄山管理計画区、洞爺湖周辺の洞爺湖管理計画区及び登別周辺の登別管理計画区の4管理計画区に区分する。

<各管理計画区の概況>

(ア) 支笏湖・定山溪管理計画区の概況

本管理計画区は、本公園の北東部を占め、支笏湖を中心にその周辺の樽前山、恵庭岳から北へ連なる空沼岳、札幌岳、無意根山にかけての山岳地及びその山麓部からなる地域である。

地形的には新第3紀末から第4紀にかけて造られた溶岩台地の空沼岳、札幌岳、無意根山等の山岳地並びに第4紀洪積世後期以降に造られた支笏カルデラ及び樽前山、恵庭岳等の火山により構成され、比較的古い火山から現在も活動を続けている火山まで様々な火山地形がみられるところに特色がある。

① 支笏湖及びその周辺地域

支笏火山は約3万2千年前に始まり、その火山活動によりカルデラが形成され、その後カルデラの中心部を通る北西の弱線に沿って樽前山、風不死岳、恵庭岳が形成され、現在の支笏湖ができて上がった。風不死岳は既に火山活動を終えているが、恵庭岳は山頂下東側の爆裂火口に小規模な噴気が認められ、樽前山は現在も活動が続いている。恵庭岳の西山麓にあるオコタンペ湖は、恵庭火山の噴出物が沢をせき止めて形成された湖で周囲の漁岳、小漁岳等の山岳とともに原生的な景観を維持している。

これらの火山活動による山々とカルデラ湖は一体となり優れた地形及び湖水景観を形成し、本公園の景観構成の核となっている。

支笏湖は田沢湖（秋田県）に次いで我が国第2位の水深（360m）を有するカルデラ湖で、寒冷な気候に加えて人家等からの汚水の流入、河川からの土砂の流入等が少ないため、我が国有数の透明度を誇っていると同時に、水質においても平成17年度及び平成19年度公共用水域水質測定において最も水質の良い湖として評価されている。支笏湖に生息する在来の魚類はアメマス等であるが、他に阿寒湖から明治27年に移入されたヒメマス（ベニザケの陸封型）が有名である。

当該地域の植生は、主に針葉樹と広葉樹が混交する森林植生で、広大な原生的森林景観を形成している。また、平成16年の18号台風では支笏湖周辺でも大規模な風倒木被害が発生し、現在、復旧のための森林整備が行われている。

樽前山は新しい火山のため標高700m付近より上部はイソツツジ、ミヤマハンノキ、イワブクロ、コメバツガザクラ等高山性の植物群落が生育し、特異な景観を呈している。湿原植物はオコタンペ湖周辺で小面積ながら生育が確認されている。

動物は、森林性の環境に適応する種類が多く見られる。哺乳類ではヒグマ、キタキツネ、

ユキウサギ、エゾリス、シマリス、エゾシカ等が生息している。鳥類では天然記念物のクマガラをはじめヤマセミ等の希少種やコノハズク、アオバト、ヒガラ、シジュウカラ等の森林性鳥類も比較的多く生息している。また、支笏湖では水鳥類のカルガモ、キンクロハジロ、オシドリ、マガモ等を見ることができるが、数、種類とも少ない。これは藻場や小魚などの餌が少ないためと思われる。

支笏湖には支笏湖集団施設地区（支笏湖温泉及びモラップ）をはじめ、ポロピナイ、丸駒温泉、オコタン、美笛の各地区に宿舎、野営場、園地、舟遊場等の公園施設が整備され、年間約93万人余りの入込者があるが、その内、道内からの入込みが7割以上を占める。また、月別では月間入込者数が10万人を上回るのが夏季の7～9月及び氷濤祭が開催される2月であり、一方、最も入込者数が減少するのが12月である。（平成19年度千歳市調べ）

札幌市など近郊都市からの日帰り利用者の比率が高いこと、また、札幌、千歳、苫小牧方面からは自転車道が整備されているため、自転車での来訪者が見受けられるのも本地区の特徴である。

支笏湖では平成18年度から全域において動力船の乗り入れ規制が行われ、閑静な水辺空間を保っている。また、平成20年度より、支笏湖漁業協同組合がヒメマスの漁業権を取得し、漁業管理や増殖事業等により資源の持続可能な利用等を図っている。

樽前山は七合目まで車道が整備され、徒歩1時間ほどで比較的容易に外輪山山頂に登ることができ、しかも溶岩円頂丘の観察や支笏湖周辺、勇払平野等の展望に優れているため登山者が多く、本地域の山では最も多い年間約1万8千人（平成20年）の登山者がある。夏期には七合目駐車場で交通混雑を来し、苫小牧市により交通規制が行われている。なお、樽前山山頂は鉱区禁止地域に指定されている。

② 定山溪およびその周辺地域

定山溪温泉は豊平川の溪流沿いに位置する北海道有数の温泉地で、年間入込者約244万人のうち、宿泊人員は約181万人（平成18年度）にも達している。

豊平峡一帯は溪谷美に優れ、豊平峡ダムがあり、ダムサイトには展望地や休憩所等が整備され夏期から秋期にかけて利用者が多い。定山溪温泉の北側には、定山溪ダムがあり、ダムサイトにはピクニック広場、資料館等が整備され利用者も多い。

豊平川上流域は、空沼岳、札幌岳、無意根山などの山々に囲まれており、これらの山には高山植物が生育し展望にも優れているため、札幌市方面からの格好の日帰り登山コースとなっている。

無意根山（標高1,464m）は、札幌近郊の山としては余市岳（標高1,488m）に次ぐ高山で、定山溪から中山峠へ至る国道沿線からそのどっしりした山容を望むことができ、優れた山岳景観である。定山溪近くの神威岳は山頂部が岩場で特異な景観を呈しており、空沼岳及び札幌岳は札幌市街から南縁のスカイラインを形成し、山頂からの眺望にも優れている。

無意根山や空沼岳などの山頂部にはコケモモ、キバナシヤクナゲ等の高山植物がみられる。湿原植物は空沼岳中腹の真簾沼及び無意根山中腹の大蛇ヶ原などで小規模ながら確認され

ている。

当該地域の土地の所有形態は、定山溪地区に存在する民有地を除いて国・公有地で、その大半が林野庁所管の国有林で占められている。

(イ) 羊蹄山管理計画区の概況

本管理計画区は、羊蹄山の山体に係る地区である。

羊蹄山は、標高 1, 898 m の典型的な成層火山の独立峰で、山容が富士山に酷似しているところから蝦夷富士とも呼ばれている。景観の特徴は、その秀麗な山容と植生にあり、山麓から山頂にかけて植物帯の垂直分布の変化が顕著に見られるとともに、頂上付近には分布の北限や南限に当たる種を含む高山植物が多種生育している。落葉広葉樹林や針広混交林に被われる山麓部には、南コブなどの側火山や火口湖である半月湖がある。

また、動物については、中・小型のほ乳類や森林性の野鳥が多数生息している。

当地区の利用者は年間約 5 万人で、山麓の真狩口でのキャンプ、ピクニック、自然探勝等や半月湖周辺でのキャンプ、ハイキング等が利用の大半を占める。

土地所有は、大部分が道有林であり、民有地は半月湖付近の山麓に僅かに存在する。保護規制計画は植生の垂直分布の保護を図るため、標高 1, 000 m 前後より上を特別保護地区に、600 m から 1, 000 m にかけての中腹を第 1 種特別地域及び第 2 種特別地域に、それ以下の山麓部が第 3 種特別地域に指定されている。

(ウ) 洞爺湖管理計画区の概況

本管理計画区は、洞爺湖及びその南側に位置する有珠火山群を包含する地区である。

洞爺湖は、直径 9 ～ 11 km のほぼ円型のカルデラ湖で、中央には中央火口丘である中島火山群を持つ。湖の周囲は、農地や果樹園、人工林が広がり、集落や市街地もあって開放的な景観を形成しているが、中島や湖岸沿いにはミズナラ、ハリギリ、カツラ等の大木の多い自然林がわずかに残されている。

中島には、クマゲラをはじめとする多くの野鳥が生息する他、かつて、観光施設で飼育されていたエゾシカが野外で自然繁殖しており、植生に大きな影響を与えている。

有珠山は、洞爺カルデラの形成後今から約 2 万年前に活動を開始した火山で、外輪山及び火口原内の円頂丘から成る有珠山本体と、周囲に多数の側火山を持ち、特に昭和 18 年から 20 年にかけての活動で生成した昭和新山は、溶岩円頂丘と言われ学術的、景観的にも非常に価値が高い。極めて活動的な火山である有珠山は、噴火の危険性が高く、20 世紀に 4 回の噴火を繰り返しており、最も新しい平成 12 年の噴火活動では新たな火口群の生成や降灰により周囲の景観が大きく変化した。このとき出来た火口群周辺は平成 15 年に国立公園に編入され、一部は特別保護地区に指定された。その後、有珠山麓では防災施設の整備が進み、平成 14 年に「有珠山火山防災マップ」が改訂され、火山防災にかかる取り組みが継続して行われている。

当地区は、北海道有数の温泉地である洞爺湖温泉を抱え、年間 491 万人（平成 19 年）の利用者があり、そのうち宿泊利用者は 104 万人となっている。

主な利用は、従来からの温泉での宿泊、保養、湖上遊覧、昭和新山やロープウェイを利用

しての有珠山の探勝、湖を周回する道路のドライブ、湖畔でのキャンプ、湖畔を利用したプレジャーボート等であったが、近年はカヌーやフットパス整備による散策等の自然と身近に親しむ利用も増加している。一方、キャンプ地以外でのキャンプや栈橋等の違法な設置等無秩序な利用による問題も生じている。

利用施設は、洞爺湖温泉街に洞爺湖ビジターセンター・火山科学館が、対岸の財田地区に洞爺財田自然体験ハウスが、中島の洞爺湖森林博物館、昭和新山のパークサービスセンター等が整備されている。有珠山周辺には環境省や北海道、伊達市、洞爺湖町、壮瞥町によって整備された火山活動を体験し学習するための散策路や解説板などがある。当該洞爺湖、有珠山地域は、平成21年8月に世界ジオパークに認定され、今後の地域振興が期待されている。宿泊施設については、洞爺湖温泉街を中心に整備されている。

土地所有関係は、有珠山、湖畔林、中島が国有林で、他は民有地である。特に洞爺湖温泉は、民有地に旅館、ホテル、商店、住宅等が密集し市街化している。

保護規制計画は、有珠山火口原、昭和新山溶岩塔及び西山山麓と金比羅の火口群が特別保護地区に指定されているほかは、大部分が特別地域であり、有珠山の南山腹が普通地域となっている。

(エ) 登別管理計画区の概況

本管理計画区は、本公園南端の登別温泉及び倶多楽湖と来馬岳から北へ連なるオロフレ峠、ホロホロ山、白老岳にかけての山岳地及びその山麓の一部からなる地域である。

登別は倶多楽火山西麓に位置し、倶多楽カルデラを生成させた後に日和山や笠山、地獄谷、大湯沼等の爆裂火口を生じさせた火山活動は今も続き、地獄谷をはじめ各所で火山現象が見られるほか、我が国屈指の豊富な温泉が湧出している。

倶多楽湖は、倶多楽火山の活動により生じた直径約2.5kmの円形をなすカルデラ湖で、透明度では、摩周湖に次ぐ我が国第2位の記録(1989年、23.8m)を持つ。カルデラ内壁の自然もよく保たれており、その静かな環境や清澄な水質から神秘の湖と呼ばれている。

地獄谷や大湯沼周辺では、硫気や酸性土壌の影響を強く受けた特有の植生が発達しており、その周辺をミズナラを主とする自然林が取巻いている。来馬岳から白老岳にかけては比較的なだらかな山地を成し、ダケカンバ、エゾマツ、トドマツ等を主とする森林に覆われ、稜線部には高山植物も豊富に生育している。この山地南部の東西両山麓には、カルルスや北湯沢をはじめ数ヶ所で温泉が湧出している。

当地区の利用は南部に集中しており、北部のオロフレ山から白老岳にかけての山岳地帯の利用は少ない。登別温泉は、古くから名湯として全国にその名を知られており、年間265万人(平成19年度)の利用者があり、そのうち宿泊利用者は124万人に達している。

また、カルルス温泉や北湯沢温泉も昔から山間の静かな温泉として知られ、国民保養温泉地に指定されている。

土地所有は、登別やカルルス、北湯沢、蟠溪等の温泉地周辺が民有地となっているほかは大部分が国有林である。

保護規制計画は、地獄谷が特別保護地区となっているほか、倶多楽湖、登別、カルルス、

オロフレ山から白老岳にかけての一带と北湯沢と蟠溪をつなぐ道路沿線及び白老町と伊達市大滝区を結ぶ道路沿線が特別地域に指定されている。